

700501263 B

厚生労働科学研究研究費補助金

医療技術評価総合研究事業

標準的電子カルテのための施設間診療情報交換に関する研究

(H15-医療-028)

平成15年度～平成17年度 総合研究報告書

主任研究者 木村通男 (浜松医科大学)

平成18年(2006年)3月

# 目 次

## I. 総合研究報告

標準的電子カルテのための施設間診療情報交換に関する研究

主任研究者 木村通男

【資料1】 MERIT-9 V3 患者診療情報（電子診療データ）提供書 規格案  
（CDA R2 対応版） 日本HL7協会 CDA/SIG 検討版

【資料2】 HIS, RIS, PACS-モダリティ間 予約, 会計, 照射録情報連携 指針  
バージョン3.0 (JJ1017 指針 Ver. 3.0)

【資料3】 JAMI Viewpoint Concerning the Definition of the Electronic  
Medical Record Japan Association of Medical Informatics, 2003.

## II. 研究成果の刊行に関する一覧表

## III. 研究成果の刊行物・別刷

### 【書籍発表】

#### 1. ホスト・監修 木村通男（抜粋）

医療情報標準化規格シリーズ1 電子カルテのための医療情報標準規格対談  
12人のキーパーソンが語る医療情報の標準化  
株式会社 インナービジョン, 2003.

#### 2. 木村通男

医療情報交換の標準化, 電子カルテが医療を変える改訂版（里村洋一編著）  
192-211, 日経BP社, 2003.

#### 3. 木村通男

相互接続運用とHL7, 映像情報Medical, Vol.36:13, 1438-1443,  
産業開発機構株式会社, 2004.

#### 4. 古賀龍彦, 杉謙一, 木村通男, 松岡健平

糖尿病診療と電子カルテ, Diabetes Journal, Vol.32:3, 15(79)-19(83), 2004.

#### 5. 木村通男（編集）（抜粋）

電子カルテ・医療情報システム部品集2005,  
発行：地域情報化研究所, 発売：株式会社インナービジョン, 2004.

#### 6. 木村通男

国際モダンホスピタルショウ2004・カンファレンスITフォーラム,  
現状で実現可能な電子カルテの範囲～標準化の課題と意義～,  
日本病院会雑誌 Vol.52:2, 100(264)-124(288), 社団法人日本病院会, 2005.

#### 7. 木村通男

静岡県版電子カルテ医療の透明性向上と標準化基盤の整備, IT VISION 10,  
10-15, 2006.

8. 木村通男（編集）（抜粋）  
電子カルテ・医療情報システム部品集 2006,  
発行：地域情報化研究所，発売：株式会社インナービジョン，2005.

【 学会発表 】

1. 木村通男，開原成允  
標準コード総覧，各コードの進捗状況と、今後コードを作る人へのメッセージ，  
第 23 回医療情報学連合大会論文集，115-118，2003.
2. 原明宏，山本信夫，西村寿夫，榎本茂輝，中里見勝彦，木村通男  
処方せん情報の 2 次元シンボル記載の標準化について  
— 日本薬剤師会・保健医療福祉情報システム工業会標準規格を目指して—  
第 23 回医療情報学連合大会論文集，320-321，2003.
3. 木村通男  
医療情報分野の標準化の動向と HELICS の役割  
第 1 回標準推進協議会シンポジウム 基調講演，2003
4. M. Kimura, T. Sakusabe, S. Tani, Y. Naito, F. Sasaki  
General Purpose Portable Data: MERIT-9 Referral Document Conformin Both  
CDA R212 and IHE PDI (Portable Data for Image), HL7 2<sup>nd</sup> International  
Conference on the CDA, 30-31, Acapulco, Mexico, Oct. 21, 2004.
5. 木村通男，安藤裕  
IHE: Integrating Healthcare Enterprise 標準規格を使った業務フロー改善  
と導入支援，第 24 回医療情報学連合大会論文集，68-69，2004.
6. M. Kimura  
Shizuoka Prefectural EMR Project, The 6<sup>th</sup> China-Japan-Korea Medical  
Informatics Conference Program and Proceedings, 26-27, Nov. 26, 2004.
7. 木村通男  
標準化が必要な電子カルテの展望，第 80 回日本医科器械学会大会予稿集，  
医科器械学，75(4)，162，2005.
8. 木村通男，谷重喜，作佐部太也  
静岡県版電子カルテ — 医療の透明性、情報の可用性を目指したその技術的  
側面，第 25 回医療情報学連合大会論文集，190-191，2005.
9. M. Kimura, T. Sakusabe, S. Tani  
Towards Japanese EHR: Shizuoka Style EMR Project, Deployment Stage:  
The 7<sup>th</sup> China-Japan-Korea Joint Symposium on Medical Informatics  
Conference Program and Proceedings, 4-5, Nov. 14, 2005.

#### IV. 新聞報道発表

1. 県の電子カルテ近く運用開始  
静岡新聞（夕刊） 平成 18 年 1 月 21 日
2. 県、電子カルテ導入，病院間で患者情報共有，全国初のシステム  
日本経済新聞（朝刊） 平成 18 年 1 月 24 日
3. 開発中の” 県版電子カルテ” ，全国病院に配布へ，新年度予算原案に計上  
静岡新聞（朝刊） 平成 18 年 1 月 24 日
4. 患者の履歴共有，県版電子カルテが稼動 袋井、沼津の 2 市立病院  
中日新聞（朝刊） 平成 18 年 1 月 24 日
5. 診療記録 IT で提供，進む透明化安心与える  
日本経済新聞（朝刊） 平成 18 年 3 月 12 日

# I. 総合研究報告

厚生労働科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）  
総合研究報告書

標準的電子カルテのための施設間診療情報交換に関する研究  
（ H15-医療-028 ）

主任研究者	木村 通男	浜松医科大学医学部附属病院医療情報部
研究協力者	秋山 昌範	マサチューセッツ工科大学
	安藤 裕	放射線医学総合研究所重粒子医科学センター
	大江 和彦	東京大学医学部附属病院
	奥 真也	埼玉医科大学総合医療センター
	奥田 保男	岡崎市民病院
	川真田文章	(株) 大塚製薬大塚アッセイ研究所
	清谷 哲朗	独立行政法人労働者健康福祉機構
	古賀 龍彦	原土井病院
	小林 芳春	埼玉医科大学総合医療センター
	坂本 憲広	神戸大学医学部附属病院
	作佐部太也	静岡大学工学部
	佐々木文夫	(株) 日本電気
	田中 徳明	岡崎市民病院
	谷 重喜	浜松医科大学医学部附属病院
	土屋 文人	東京医科歯科大学歯学部附属病院
	中島 直樹	九州大学医学部附属病院
	廣瀬 康行	琉球大学医学部附属病院
	古川 裕之	金沢大学医学部附属病院
	平井 正明	(株) 日本光電工業
	松田 恵雄	埼玉医科大学総合医療センター
森村 晋哉	(株) アロカシステムエンジニアリング	
山下 芳範	福井大学医学部附属病院	
山本 隆一	東京大学大学院情報学環・学際情報学府	
渡辺 宏樹	東京大学医学部附属病院	

(五十音順)

研究要旨 電子的紹介状、および患者への電子的診療情報提供の規格が、ISO 規格化され厚生労働省の標準的電子カルテ推進委員会報告書でも推奨されている各種標準規格 HL7 CDA R2, MERIT-9 v. 3, J-MIX, HL7 v2. 5, DICOM で、まず、規格書を整備、実装、ブラウザまで作成した。また、処方箋情報を 2次元バーコード化して薬剤レセコンおよび診療所用システムに実装した。これらは、静岡県版電子カルテシステムに採用されて早くも実運用に入っている。また、早速、平成18年度予算において厚生労働省が、この静岡県版電子カルテシステムプロジェクトの成果を更に発展させ、全国に配布する事業を盛り込んだ。本研究の成果は、静岡県版電子カルテシステム、および厚生労働省標準的電子カルテ情報交換システム開発委託などを通じて早期に広く全国で利用されようとしている。その波及効果は、単に紹介状、電子的診療データ提供、院外処方箋にとどまらず、これらを利用するために HIS や診療所システムが HL7, DICOM などで標準化されることに意義があり、疾病対策情報収集、治験情報収集、広域臨床スタディ、健診との連携、災害時バックアップなどもこれまでよりもずっと簡単に安価に行なえることとなる。

#### A. 研究目的

厚生労働省の示した保健医療分野の情報化に関するグランドデザインでは、電子カルテの普及は必須のものとされており、それに関連して各種の研究・開発が進められている。主任研究者は、これまで診療情報の連携に関する研究を進めてきたが、電子カルテがもたらす施設間診療情報連携の推進のため、以下の点について、研究・開発をおこなう。

##### **\* CD などによる電子的紹介状の情報多量化とその運用に関する検討**

電子カルテ導入のメリットとして診療施設間紹介状の持つ情報が、紙による紹介状に比べて電子化により数段、情報量が多くできるという点がある。これは、患者、施設の双方にとつ

て連携の充実と手間の削減のメリットをもたらす。そこで本研究では、送出側、受取側、両方において、この機能のコンポーネント化をおこなう。また、情報多量化となった際は、特に、受取側での有意な情報の迅速な選択のための機能が必要となることが予想されるので、これについても機能の提案・開発をおこなう。

##### **\* 院外処方箋に処方内容を2次元バーコードで記載し、受取側である薬局で読み取る機能の研究・開発**

院外処方箋が薬局を特定しないことは重要であるが、それが故に紙運用のままであるのは、非効率であり、事故防止の観点でも望ましくない。ネットワークでの配信も可能であるが、その設備の有無が、特定の薬局に有利に

ならないようになるまでにはまだ時間がかかる。以上の理由で、標記の機能の研究・開発をおこなう。

**電子カルテの機能を充実させる上記のような個々の機能を実現することにより、診療施設間の情報連携が、促進され連携診療の向上につながり、また、事故防止にも寄与し得る。一方、患者にとっては、セカンドオピニオンを受けやすくなり、ひいては、医療の透明性の向上が期待される。**

## B. 研究方法

電子的紹介状については、まず、紹介状文書形式の標準化をおこなった。HL7 CDA R2 準拠、続いて J-MIX 準拠である。これらを規格書として形式化し英文規格書も作成した。付随する研究開発として画像検査項目コードの標準化を行なった。紹介状に用いられる各種コードには、病名、薬剤、検体検査、画像検査などがある。前の3つは、標準病名集、HOT コード、JLAC コードと標準化が進んでいるが、画像検査については進んでいなかったのが当研究でこれを標準化し、JJ1017 コードとした。

院外処方箋の2次元バーコードについては、この規格を制定する保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）と、日本薬剤師会の共同作業に助力し、規格化を促進した。

（倫理面への配慮）

本研究は、個人情報を含む保健医療福祉情報のプライバシー保護等を確

保することも含めた情報伝達（情報交換）の方法を目的として行った。研究推進に当たって人や動物等を直接対象とすることは、無かったため、倫理面における新たな問題を発生することはなかった。

## C. 研究結果 平成15年度

画像検査項目コードについては、実際にオーダ時に利用されるコードと情報連携時に用いられるコードとが異なる必要はなく、真に今求められているものは、実際にオーダできるコードであるという結論に達した。その結果、部位347、手技427と、かなり前年までのものと比して増加し、負荷や体位などの検査条件などについても従来「方向」としてまとめられていた中に収録した。JJ1017 コードは、部位、手技、方向の3軸を組み合わせるため現在可能な組み合わせは12万を超えるが、このなかで実際に行われている組み合わせは、数千であろうかと思われる。また、この際、外保連コードとの対応を行った。

MERIT-9 紹介状形式の CDA L2R2 対応については、大本の規格の固定化を待っていたが、ISO 化という目標もあり比較的早期に固定化したため、作業は問題なく行われた。また、これにより記述される紹介状の自然表記は、XML のスタイルシートが簡単に適用できることが判明した。

院外処方箋情報の2次元シンボル化については、用いるべきコードは、HOT コードであり、また、HL7 項目で



保険情報、処方量情報などが十分でなく日本国内拡張として補う必要があることが判った。採用すべき2次元シンボルは、処方箋のスペースからしてQRコードとPDF417が適当であることがわかり、次年度では、実際に多数印刷して優劣を判定する予定している。

## 平成16年度

電子的紹介状については、平成17年2月に行われたIHE-Jコネクタソンで(株)NECと(株)SBS情報システムの製品に盛り込まれた機能でPDIプロファイルとしての合格を得た。さらに、PDIプロファイルの範囲を超えるが、検査結果、処方についても盛り込んだグラフ化参照機能も用いて表示できることを示した。

所見記述については、紹介状内容をCDA R2 準拠のXML化し、XMLブラウザによって自然な形で表示ができた。

処方箋の2次元バーコードは、ここでは実装試験はおこなわなかったが、相互運用性実証事業でEMシステムによって実装された。

JJ1017コードは、これを用いてIHE-Jコネクタソンが行われて今や日本での標準的画像検査コードとなろうとしている。各学会、業界団体に向けてのコメントを求める準備も進んでいる。

電子カルテ普及率に関する調査結果は、静岡県下全病院(183)中、回答は65(36%)の病院から寄せられた。調査では、通常型電子カルテは、以下のような日本医療情報学会の定義に従った。

- 十分な業種でオーダが稼動
- 検査結果などが十分昔のものも迅速に検索(5秒以内で表示、3年前以前を削除していない)
- 患者説明に寄与(検査結果か画像を患者に「時に見せて説明」or「よく見せて説明」)

調査の結果：

\*\*いわゆるペーパーレス電子カルテ  
パッケージ導入病院 5(8%)  
\*\*オーダ導入病院 29(5%)  
\*\*検査結果または画像を見せている  
(=日本医療情報学会定義による  
電子カルテ) 20(31%)  
であった。

## 平成17年度

まず電子紹介状については、昨年度までの段階で紹介状規格MERIT-9のJ-MIX準拠、HL7 RIM準拠が実施されてきたが、この規格が広く実装されるために日本HL7協会規格として審査されることになった。当報告書に附属する規格書は、それぞれ「電子紹介状」「メディアでのファイル配置」「電子署名」「暗号化」についての取り決めである。また、これらはIHEでも求められているので英語版も作成した。

この規格は、静岡県版電子カルテシステムに採用されることとなり、図1にそのプロジェクトの概念図を示す。右上の紹介状管理システムの部分で採用された。図2は、それを診療所側から見た図である。ここで本規格は、紹介状だけでなく患者への電子的診療情報提供をおこなう規格にも用い

られた。

図3は、各社による接続性試験の様子である。図4は、その紹介状の様子、図5は、処方、検査結果、画像を見るブラウザの例である。図6, 7は、平成18年1月の大学病院情報マネジメント部門連絡会議での各社、揃ったデモの様子である。

巻末に新聞報道発表を添えた。すでに沼津市民病院、袋井市立病院で実稼働している。

院外処方箋については、図9が、その概念図であり、図10は、(株)三洋電気による実装デモの例である。上記会議において、特に薬剤系の参加者から驚きの声が上がった。

診療情報の自然言語表記に付いては、すでに浜松医科大学病院で実装、実運用されている臨床情報データベースの病名表現形式から表示への実装を行なった。ただし、今回は所見ではなく病名標記のみにとどまった。

#### D. 考察

電子的紹介状の規格は、以前から主任研究者が提唱してきたが、今回、それを国際規格に準拠させることができたことにより、産業界からも早速、採用の動きがあったため、これが実装でき、実証できた。また、診療施設間の情報提供だけでなく患者への情報提供の手段として利用できることも実証できた。

2次元バーコード院外処方箋は、当初、情報量、バーコードサイズと処方箋余白部分との兼ね合いが問題視されたが、大きい場合は、問題なく2枚

目を出力することとなり実装に至った。フリーアクセスを担保するために規格は、標準的でなければならず、ISO規格にもなるHL7での記述ということで保健医療福祉情報システム工業会（JAHIS）と日本薬剤師会が積極的に規格化を進め、これを受けて早くも実装が可能となったと考える。

両成果とも、早くも商業的実装が行なわれたことは、国際的標準規格に則って当研究がおこなわれたためであろう。早速、平成18年度予算において、厚生労働省が、この静岡県版電子カルテシステムプロジェクト成果を更に発展させて全国に配布する事業を盛り込んだ。

#### E. 結論

HL7 CDA R2 による紹介状形式、HL7v2.5による処方情報、検査結果、患者個人情報、処方内容バーコード、およびDICOMによる画像は、すべて診療施設間連携で有用に用いられることが実証された。これが早くも実運用を向かえ、今後の全国展開も視野に入ったことは、主任研究者のこの上ない喜びである。

処方箋情報の2次元バーコード化は、薬局における事務合理化、間違いの減少に寄与することは疑いない。フリーアクセスを担保とするならば内容は、ISO化されるHL7であり現状では、ベストの手法と考えられる。

電子紹介状、処方箋バーコードとも現在は、CDや紙など媒体を通じての情報連携であるが、今後ネットワークが

安価に、安心して用いることができるようになれば、データ形式は、世界標準であるのでコストは、少なく移行できる。昨今、世界各国で進められているネットワークベースの EHR（地域健康情報記録）にも遅れることはない。

本研究の成果は静岡県版電子カルテシステム、および厚生労働省標準的電子カルテ情報交換システム開発委託などを通じて早期に広く全国で利用されようとしている。その波及効果は、単に紹介状、電子的診療データ提供、院外処方箋にとどまらず、これらを利用するために HIS や診療所システムが HL7, DICOM など標準化されることに意義があり疾病対策情報収集、治験情報収集、広域臨床スタディ、健診との連携、災害時バックアップなどもこれまでよりもずっと、簡単に、安価に行なえることとなる。

## F. 研究発表

### 1. 書籍発表

ホスト・監修 木村通男：  
医療情報標準化規格シリーズ 1  
電子カルテのための医療情報標準規格対談 12 人のキーパーソンが語る医療情報の標準化，発行（株）インナービジョン，2003.

木村通男：医療情報交換の標準化，電子カルテが医療を変える改訂版（里村洋一編著），192-211，日経 BP 社，2003

木村通男：相互接続運用と HL7，映像情報 Medical，Vol.36:13，

1438-1443，産業開発機構株式会社，2004.

古賀龍彦，杉謙一，木村通男，松岡健平：糖尿病診療と電子カルテ，Diabetes Journal，Vol. 32:3, 15(79)-19(83), 2004

木村通男（編集）：電子カルテ・医療情報システム部品集 2005，発行：地域情報化研究所，発売：株式会社インナービジョン，2004.

木村通男：国際モダンホスピタルショー 2004・カンファレンス IT フォーラム，現状で実現可能な電子カルテの範囲～標準化の課題と意義～，日本病院会雑誌 Vol.52:2, 100(264)-124(288)，社団法人日本病院会，2005.

木村通男（編集）：電子カルテ・医療情報システム部品集 2006，発行：地域情報化研究所，発売：株式会社インナービジョン，2005.

木村通男：静岡県版電子カルテ医療の透明性向上と標準化基盤の整備，IT VISION 10, 10-15, 2006.

### 2. 学会発表

木村通男，開原成允：標準コード総覧 各コードの進捗状況と、今後コードを作る人へのメッセー

ジ, 第 23 回医療情報学連合大会  
論文集, 115-118, 2003.

原明宏, 山本信夫, 西村寿夫,  
榎本茂輝, 中里見勝彦, 木村通  
男: 処方せん情報の 2 次元シン  
ボル記載の標準化について  
—日本薬剤師会・保健医療福祉情  
報システム工業会標準規格を目  
指して—, 第 23 回医療情報学連  
合大会論文集, 320-321, 2003.

木村通男: 医療情報分野の標準  
化の動向と HELICS の役割,  
第 1 回標準推進協議会シンポジウ  
ム 基調講演, コクヨホール, 1  
月 29 日, 2004.

M. Kimura, T. Sakusabe, S. Tani  
Y. Naito, F. Sasaki:  
General Purpose Portable Data:  
MERIT-9 Referral Document  
Conform in Both CDA R212 and IHE  
PDI (Portable Data for Image),  
HL7 2<sup>nd</sup> International  
Conference on the CDA, 30-31,  
Acapulco, Mexico, Oct. 21, 2004.

木村通男, 安藤裕:  
IHE: ntegrating Healthcare  
Enterprise 標準規格を使った業  
務フロー改善と導入支援,  
第 24 回医療情報学連合大会  
論文集, 68-69, 2004.

M. Kimura: Shizuoka Prefectural  
EMR Project,

The 6<sup>th</sup> China-Japan-Korea  
Medical Informatics Conference  
Program and Proceedings, 26-27,  
Nov. 26, 2004.

木村通男: 標準化が必要な電子カ  
ルテの展望, 第 80 回日本医科器  
械学会大会予稿集, 医科器械学,  
75(4), 162, 2005.

木村通男, 谷重喜, 作佐部太也:  
静岡県版電子カルテ — 医療の  
透明性、情報の可用性を目指した  
その技術的側面, 第 25 回医療情  
報学連合大会論文集, 190-191,  
2005.

M. Kimura, S. Tani, T. Sakusabe :  
Towards Japanese EHR: Shizuoka  
Style EMR Project, Deployment  
Stage, The 7<sup>th</sup> China-Japan-Korea  
Joint Symposium on Medical  
Informatics Conference Program  
and Proceedings, 4-5, Nov. 14,  
2005.

### 3. 新聞報道発表

県の電子カルテ近く運用開始  
静岡新聞 (夕刊) 平成 18 年 1  
月 21 日

県、電子カルテ導入, 病院間で患  
者情報共有, 全国初のシステム  
日本経済新聞 (朝刊) 平成 18  
年 1 月 24 日

開発中の” 県版電子カルテ” , 全

国病院に配布へ、新年度予算原案  
に計上

静岡新聞（朝刊） 平成 18 年 1  
月 24 日

患者の履歴共有，県版電子カルテ  
が稼動，袋井、沼津の 2 市立病院

中日新聞（朝刊） 平成 18 年 1  
月 24 日

診療記録 IT で提供，進む透明化  
安心与える

日本経済新聞（朝刊） 平成 18  
年 3 月 12 日

G. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

図 1

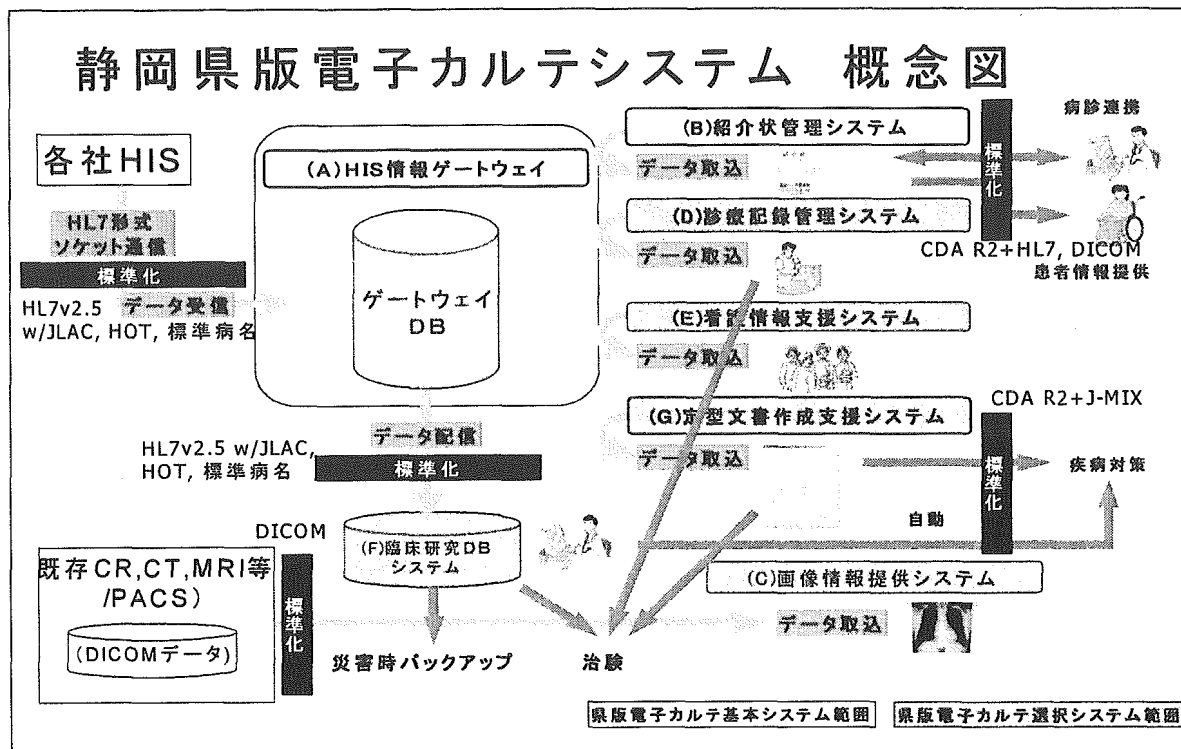


図 2

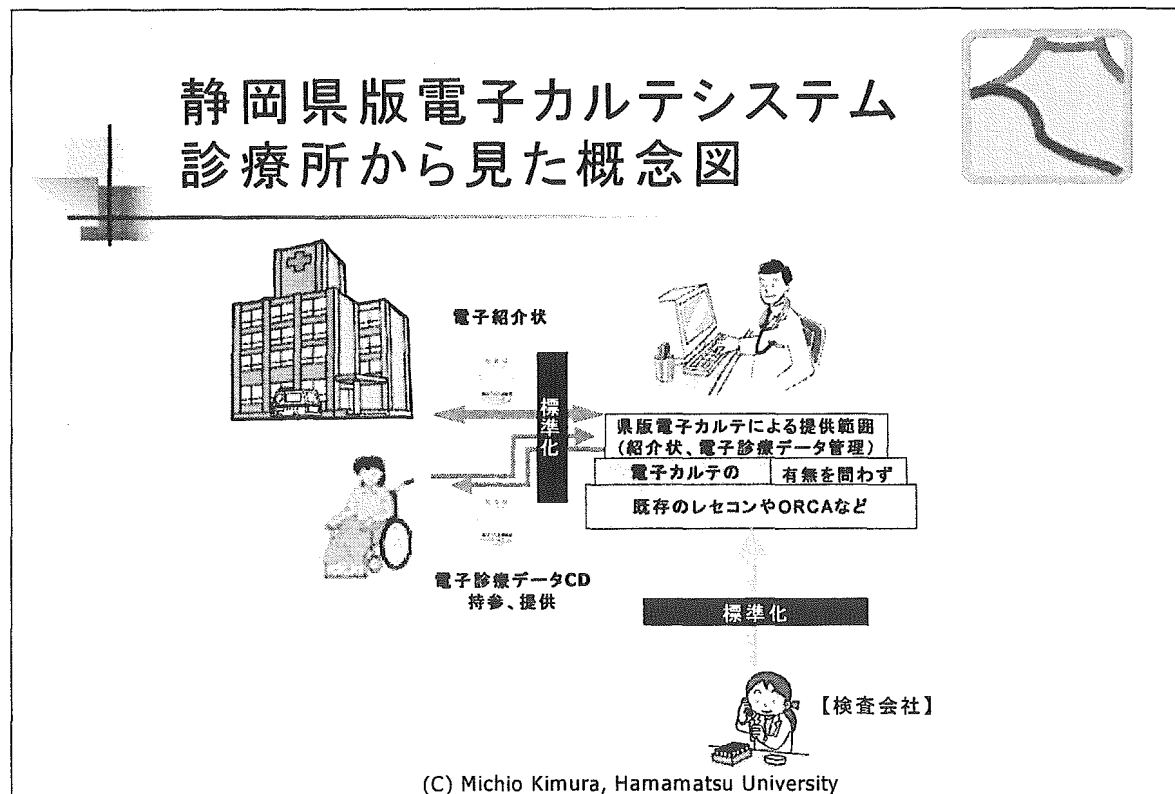
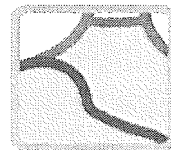


図 3

# 接続性試験 (静岡コネクタソン)



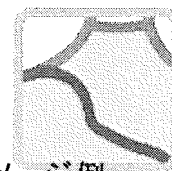
- 富士通HIS一  
県版ゲートウ  
エイ



(C) Michio Kimura, Hamamatsu University

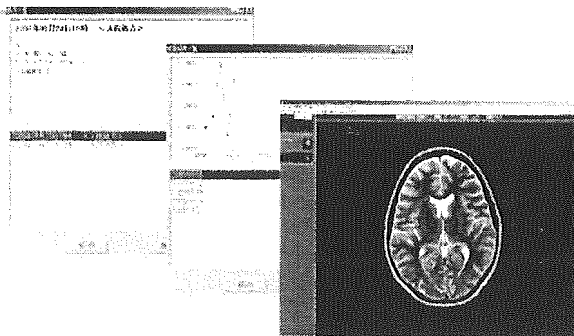
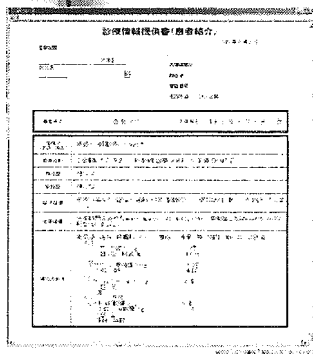
図 4

## (B) 紹介状管理システム／診療情報提供システム(4) 紹介状ビューワ



紹介状出カイメージ例

処方履歴, 検査結果, 画像参照イメージ例



【紹介状表示画面】では、以下紹介内容の表示が行えます。

- ① 紹介状を作成した年月日。
- ② 紹介先の情報。
- ③ 紹介元の情報。
- ④ 患者の基本情報
- ⑤ 患者の診療情報など紹介状の内容

【処方一覧画面】では、処方箋の内容の表示が行えます。

- ① 処方箋の内容

【検査結果一覧画面】では、臨床検査の内容の表示が行えます。

- ① 臨床検査の内容
- ② 検査項目の結果値がグラフ表示可能。

【画像参照画面】では、放射線検査の内容の表示が行えます。

- ① 撮影内容

(C) Michio Kimura, Hamamatsu University

図 5

(B) 紹介状管理システム / 診療情報提供システム (2)

診療情報CD参照機能、及び画面例

診療情報CDは、下記のように構成され、患者は病院から提供された診療情報を参照することが可能となる。

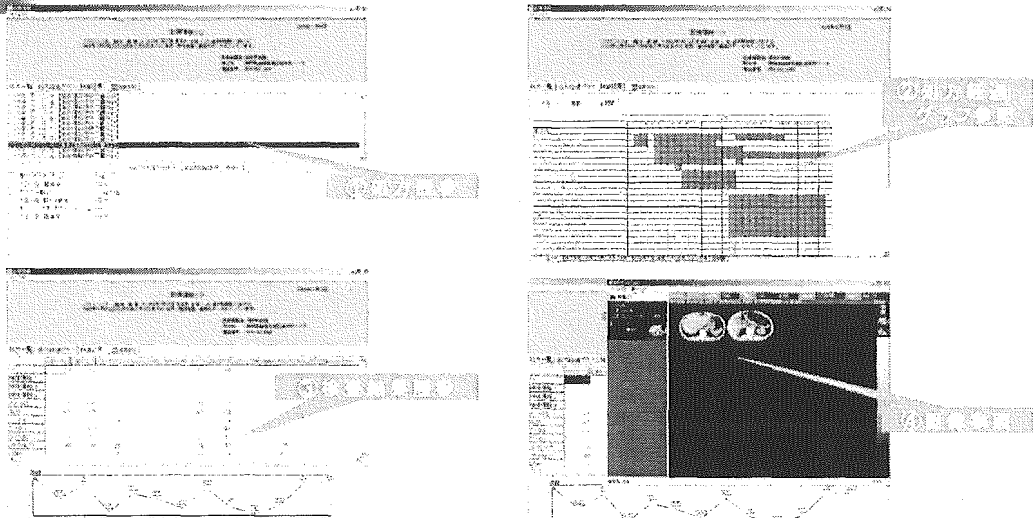


Figure 5 displays four screenshots of a medical information system interface. The top-left screenshot shows a data table with columns for patient information and medical history. The top-right screenshot shows a similar table with a callout box pointing to a specific row. The bottom-left screenshot shows a line graph representing medical data over time. The bottom-right screenshot shows a graph with a callout box pointing to a specific data point. A small icon of a stylized map is located in the top right corner of the figure.

(C) Michio Kimura, Hamamatsu University

図 6

大学病院部門会議での県版ショールーム  
: 病院用システム

- 富士通
- NEC
- ソフトウェアサービス
- NTTデータ
- SBS情報システム
- デモ内容: 富士通 → HIS  
ゲートウェイ → SBS




Figure 6 shows a photograph of a meeting room. Several people are seated at a long table with multiple computer monitors. They appear to be participating in a demonstration or a meeting. A small icon of a stylized map is located in the top right corner of the figure.

(C) Michio Kimura, Hamamatsu University



図 7




## 大学病院部門会議での県版ショールーム : 診療所用システム

- SRL
- BML
- 富士通
- 三洋
- パルステック
- サンジャパン

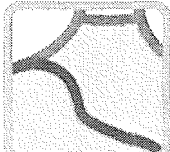




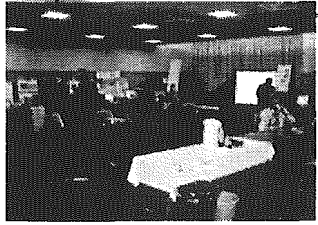
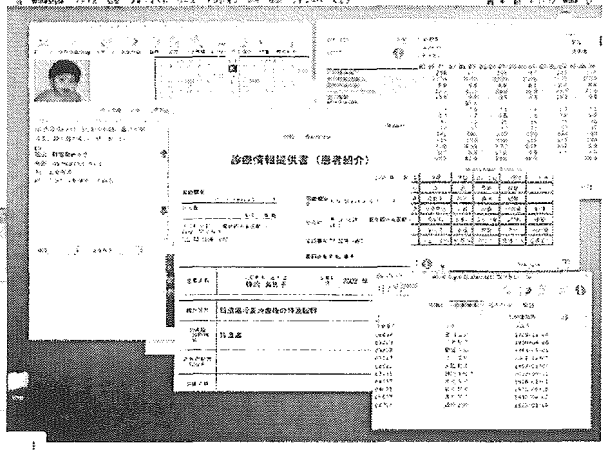



(C) Michio Kimura, Hamamatsu University

図 8



## 大学病院部門会議での県版ショールーム : MACあり、ORCAあり、非ORCAあり、 MML→MERIT-9あり

(C) Michio Kimura, Hamamatsu University

図 9

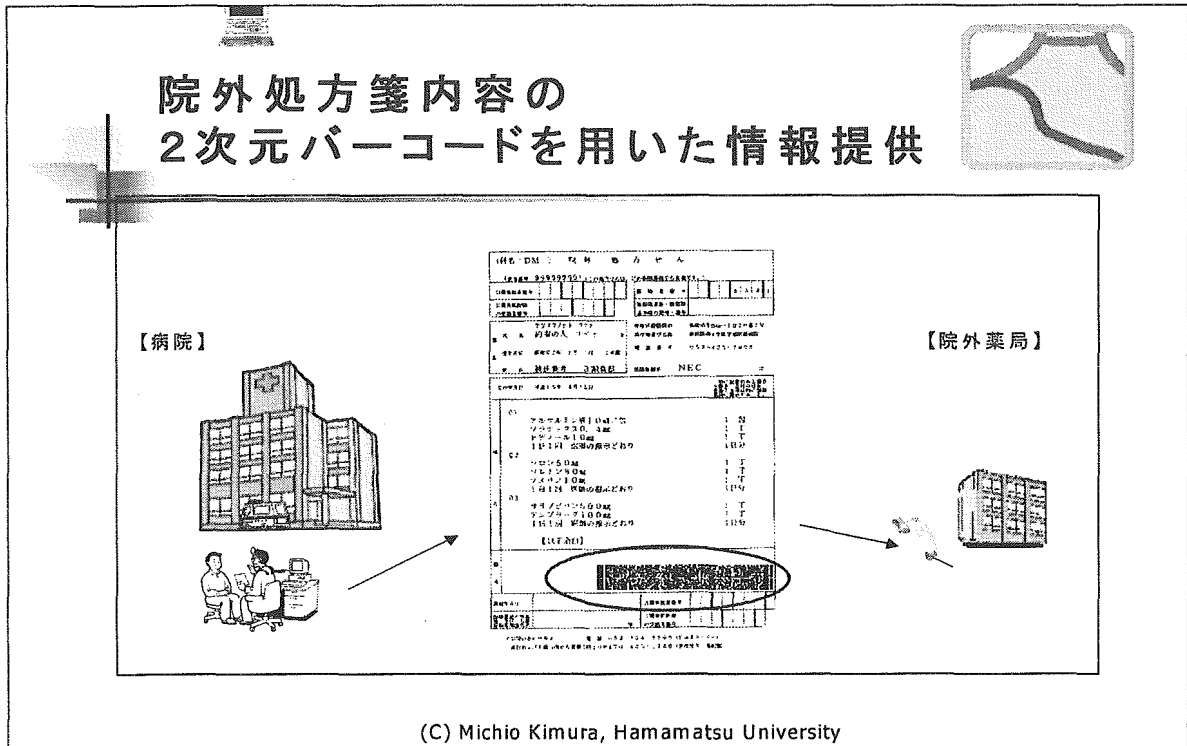


図 10

### 大学病院部門会議での県版ショールーム : 院外処方箋2次元バーコード

- バーコードをスキャンすれば
- 薬局レセコン手入力不要
- 内容はHL7

(C) Michio Kimura, Hamamatsu University

# 【資料 1】

MERIT-9 V3

患者診療情報（電子診療データ）提供書  
規格式案（CDA R2 対応版）

日本HL7協会 CDA/SIG 検討版

# MERIT-9 V3

患者診療情報（電子診療データ）提供書

規格案

（CDA R2 対応版）

Ver 0.95 2006/03

日本 HL7 協会 CDA/SIG 検討版